

令和3年度 第3回苫小牧市民文化芸術審議会 会議概要

日 時：令和4年3月23日（水） 13：25～15：45

会 場：苫小牧市役所第2庁舎 2階北会議室

出席委員：伊藤委員、尾野委員、坂井委員、下山委員、中川委員、
林委員、松原委員 計7名

欠席委員：草賀委員、佐藤委員、手塚委員 計3名

事務局：瀬能教育部長、斎藤教育部次長
生涯学習課 林崎課長、別紙主任主事

1 開会 （進行）林崎課長

2 議事 （進行）坂井会長

（1）令和3年度苫小牧市民文化振興助成事業の報告について

- ・令和3年度助成事業の18事業のうち、主に助成金が減額となった5事業、中止となった9事業について事務局より報告（別紙主任主事）

※令和3年度事業については、事務局の報告とおりに承認を得る。

（2）令和4年度苫小牧市民文化芸術振興事業の申請について

- ・令和4年度助成事業の申請15件について、事務局より説明（別紙主任主事）

<質疑>

会 長：今回は15件ということで、1件ずつ確認していきます。まず1番目、音の花束シリーズについて何かありますか。

委 員：複数の事業でそうだが、申請者が個人になっている。本当に個人1人で取り仕切るのだろうか。例えば、申請者が事業を開始するまでに何かあった場合、この事業は中止せざるを得ないという組織体制なのか。普通なら組織とか実行委員会とかを作ってやるのではないかという気がする。主催者としてきちんと団体が運営していかなければ発展性がないのではないか。前回将来構想についての論議をさせてもらったが、この辺を皆さんはどう思うのか。

事務局：対象者について補足させていただきますが、交付要綱第2条では市

内に活動の本拠を有する市民及び団体ということで規定され、個人での申請も可能となっております。

委員：個人で申請されているのは、市民に演奏を広めて聞かせたいと思っている。ゲストを呼んでやろうとすると、予算の関係上難しいので助成金を活用したいというのが頭にはあると思う。今回は要綱などを改正したので、それにはめるような形を申請者もやってほしいし、こちらもやらせてあげたい。はまらないようであれば指摘をして、申請者に確認する。継続させるものは継続させるという形を取ればいいと思うが。15件の事業目的・内容を見ると、きちんと書けているところもあれば、書けていないところもある。申請者がこの仕組みをしっかりと頭に入れてやるという意識を持っていただければいいのではないか。

委員：従来の延長線上で、内定してきたからいいというのではなく、今後継続するのであれば将来構想もそろそろ考えられる時期ではないか。

委員：1番目の千葉さんも2番目の村田さんも、本人が出ないのであればやらないし、できないと思うので中止になる。だからどうすればいいという答えは出せないが、実行委員会だとしても本人が出られなければ主催者としてどうなのか。

委員：本人が出るのが悪いというのではなくて、個人の申請であればどんな関係の人でも謝金の対象になる。実行委員会だったら会員への謝金はだめなので、個人は線引きが非常にあいまいな気がする。

委員：会場費が無料というところではコストを下げるという意識を持っていると思う。出演料を見ると、事業によって極端に違う。申請者が自由に決めていいのか。

委員：プロの方でも5万円、ルーランド・デュイチェロリサイタルでは10万以上と奏者で差がある。プロになってくると5万円くらいが相場である。

会長：出演料の中に、交通費や宿泊費などが含まれている団体もあるので一概には言えない。他の事業の審議になっているので、2番の4人のチュービストによるウィンターコンサートの審議に移ります。

委員：謝礼に4名分とあるが、これは申請者本人にも支払うのか。

委員：これはピアノの伴奏謝礼で問題ない。本人たちの報酬ではない。

会長：チューバ4人というのは世界的に見てもめずらしいのではないか。

委員：めずらしいのであれば、入場料は300円でも少し取れないのか。文化はただで見せるものではない。苫小牧では金を出しても見に行くという風土がなく、そこを直していかない限り苫小牧の文化の発

展はないと思う。

委員：小・中・高をターゲットに、将来的には継続していきたいという熱意と捉えると、ぜひやってもらいたい。実際にターゲットとした人が来るかどうかは、結果を見てみないとわからないが。

委員：来るとは思う。無料、有料は何とも言えないが、演奏会自体はいいと思う。

委員：まず無料にして、名前を広めるのではないか。発表会では、300円でもお金をとるのかと言われることもある。

会長：次は、3番の新道展苦小牧支部展の審議に移ります。

委員：これこそ本人方だけの展覧会ではないか。

会長：支部会員が1年間に制作した作品とありますね。

委員：お稽古ごととは言わないが、団体の支部展。極端に言えば通常的な活動ではないのか。公募展に出す作品の展示ではないのか。

委員：中央の公募展に出展していきたい人を出すような方向性を持つのか、苦小牧美術協会も公募展があるが、そういった公募展に出すような人の刺激になればいいが。少し気になったのは、事業の特徴に「親睦を兼ねて」と書いてある点だ。林委員が言うような将来性の展望という見方は、今回様式が変わって初めてだから、まだまだ難しいとは思っているのだが。

委員：特定の個人、支部会員を対象にしているということだけだ。支部会員しか参加する資格がないというか。

委員：新道展の会員か、公募展に出品した人に限られますね。誰もが出せるというわけではありません。

会長：交付要綱で行けば、自主的な鑑賞提供事業に当てはまりますが。

委員：新道展の苦小牧支部に入っている方が出す。いわゆる一般人は入ってこない。そうしたら会員だけの展示会で、それを一般の方が見に来るという形ですよ。

委員：そういう意味でいうと、今回はコロナの影響で中止したが、我々の苦小牧美術協会の春季展も会員と会友が作ったものを出しているということで似ている。それは広く一般市民に絵画というものを、次にどう繋いでいくかというのが判断基準、将来性になると思うが、様式が変わって1回目の計画書なので出しにくかったのではないか。

委員：質の高い芸術を見せたいというのであればいい。それであれば新道展で入選した作品の巡回展をやればいいのか。

委員：会員のメンバーの作品を一般に見せることは当たり前だが、この事業について整合性というか、はまるのか、はまらないのかと思って

いる。将来性という点では、新しい人も入れて、入りたいという人も入れてやっていくかどうかだ。過去2回助成しているから、今回もというのはなしだ。(助成事業として)はめられるかどうかだ。

委員：お花の作品展でも話したことだが、一つの流派でもいいのかと。一般市民も入れなければだめだということで、子供に(体験コーナーを)やるということでクリアしてきたのですよね。新道展にはその意向がない。

委員：新道展は会員以外に、一般の方の公募も入れるのかなと思ったが入っていない。

委員：支部が主催するのはいいが、支部展ではないのか。

事務局：事業の特徴のところに、「支部会員が」と書き切ってしまうところが誤解を与えていると思います。そこがどう変わるかではないかと思います。

委員：実態として変わるのかだと思う。文言を変えるのではなくて。ここに出るのは公募展に出る作品なのだ。

委員：これは(申請者を)呼んでやりますか。この計画書を見るだけではわからない。

委員：嘘を言わないのであればこれが実態だ。

会長：こちらに関しては審査会で審議ということでよろしいですね。次は4番目の池坊苫小牧支部いけばな展ですね。

委員：花材代に生け花体験コーナーの器とあるが、器代は計上してはだめではないか。個人の持ち物になるし、花によって器を変えるが、器代に助成金を使つてはいけないと思う。

事務局：器ですが、紙コップのようなものに挿すような形で、立派な器ではないと聞いています。

委員：先ほどポイントとなっていた、内輪というところに、子供を入れるということで理解をするということですね。

事務局：今回は市民いけばな体験コーナーということで、見るだけではなく子供に限らず広く市民が参加する内容になっています。

委員：前回伊藤委員から花代の指摘があつて、今回の内容を見ると3万円ということで努力していると感じた。

会長：いけばな展についてはよろしいでしょうか。次は5番目の、輝く子供たちのためのコンサート・ワークショップです。市民参加という意味ではかなり工夫されていると思いますが。

委員：これはワークショップである程度のレッスンをして、コンサートを1週間後に開くという理解でよろしいでしょうか。

- 事務局：9月23日と10月16日にワークショップということで、1か月前くらいからワークショップを行います。今回のワークショップ内容は、事業内容にも書かれているとおり、ボディパーカッション、ヴァイオリン、ヨガ、ピアノ構造ということで、ピアノの発表をする子もいますが、ワークショップの成果発表としてボディパーカッションを披露する子もいます。練習のための会場費等は対象外経費のため計上されていませんが、ワークショップからコンサートまでの1か月間に練習を行うと聞いております。
- 委員：去年はハスカップホールでやっていたが、ワークショップ参加者はどれ位いたのか。
- 事務局：ワークショップはヴァイオリンだけでしたので参加者、関係者を含めて31名と伺っています。
- 会長：次は6番目の、夜会シリーズです。
- 委員：事業目的の見込まれる効果を見ると、本来の意図とは違うかもしれないが、言いたい本音がずばり書かれている。
- 委員：演奏者は毎年変わらないということか。
- 事務局：例年はイギリス在住のプロヴァイオリン奏者の岡嶋さんと呼んでいますが、今回はピアノ奏者2名、ヴァイオリン奏者1名で構成されています。
- 会長：毎年同じメンバーでやるということではないのではないのか。次の7番の、ルーランド・デュイチェロリサイタルも似たような申請なので一緒に審議しますか。
- 委員：50人、80人市民が集まって、前回のコンサートと何人入れ替わっているのかと思う。本当に市民に拡大していこうとしているのか。
- 委員：去年の夜会シリーズは何人来たのか。
- 事務局：去年は三星ハスカップホールで、コロナ禍で席数を半減していますので40から50人程度と聞いています。
- 委員：先ほども出た謝礼の話だが、伴奏謝礼も高い。どこから来るのか。
- 事務局：ルーランド氏と同じく外国から来られると思います。先ほど会長からもありましたとおり、旅費を含んだ謝礼となっていると思われます。
- 会長：岡嶋さんも、ルーランドさんも演奏を聴いたことがあります。素晴らしい演奏だと思います。また、海外からの渡航費は助成対象外で含まれていません。
- 委員：(ルーランド・デュイチェロコンサートは) 毎年やっていて今回12万円ということで、申請金額が上がっているのは何か理由があるの

か。

事務局：ピアノの調律代が入ってきているというところだと思います。

会長：それでは次の8番、沼ノ端新栄公園ステージフェスティバルです。

委員：実行委員は何人くらいいるのか。

事務局：実行委員の人数は41名です。

委員：去年は中止になったが、今回の事業目的には文化の提供とか、文化レベルの底上げとか入れているが、前回と趣旨がしっかり入っているというのは、何が入っているのか。

事務局：趣旨が入っているというのはどういうことでしょうか。

委員：文化芸術の助成金をもらうための考えを持っているなということだったのですけれども。変わりましたよね、今回。その前というのは何と書いてあったかなと思って。

事務局：今回審議されるのは新年度の事業ということで、先ほど新道展でもおっしゃられていたと思いますので、そういう考え方でいきますと、今回の別紙1事業計画の内容でご審議していただく形かと思います。

委員：謝礼は1人3万円くらいか。

事務局：謝礼はグループ、個人で3万から6万円、合わせて57万円、ほかにMCへの謝礼8万円と内訳は何っています。

委員：MCをやっている人を知っているが、音響を入れて2万円とかだが、これは野外で規模も大きいのでこれくらいかかるのでしょうか。

委員：自己財源にある沼ノ端地区協力会員とは何なのか。沼ノ端地区協力会があるわけではないのか。

事務局：申請自体は沼ノ端新栄公園ステージフェスティバル実行委員会としてされていますので、沼ノ端地区協力会としては申請されておられません。

委員：沼ノ端地区協力会が150万円出していいとなれば、助成がなくてもできる。だから活性の火と似ていてのではないかと思ってしまう。地元の活性化、まちづくりではないかと。文化芸術を後から付け加えれば、何とかこの助成金をとというような感じがする。

委員：沼ノ端の町内会でかなり力を入れてやっているの、そこで捻出できるのではないかと思う。なぜあえて文化芸術の申請を出すのかと。だから先ほど聞いたのは、今回は別紙1に文化の底上げとか書いているだけではないのと言っているのです。

事務局：今年度の企画書にも、新年度の事業計画に書かれていることが書かれています。

委員：実行委員会の申請者が、本当にそういうふう考えてやっているの

かというのが知りたい。

委員：協賛も町内会が6団体含まれていて、町おこし、地域おこしという
においは強い。

委員：助成金が出なかったら、町内会でもっと出せるのでしょうかね。

委員：50万円出さなければ中止になるということはないと思う。

会長：事業目的の中でも、自立化した事業予算の組み立てを図るとなっ
ているので、来年以降は違う展開があるのかなという気がする。

次は、9番のエピッチェノンノスプリングコンサートですが、もう
一つ新規事業の、10番の横山瑠佳&福井萌デュオリサイタルも一
緒に確認します。

委員：申請者と出演者の関係がどうなのか。謝礼は出すのか。代表は変え
た方がいいのではないかと考えてしまう。

事務局：出演されるのはエピッチェノンノというマリンバグループと、ゲスト
にパーカッション奏者の本目氏ということで、謝金は問題ないと思
います。

委員：10番は、市内に実家があるのであれば、旅費・交通費を辞退すれ
ば助成金はいらなくなるのではないか。

委員：今皆さんの意見を伺って、いろんな要素の合わせ技なのかなと。申
請者の思いもあるし、出演者の思いもあるし、興業もある。市とし
て、市内出身のお二人が来てくれて、できれば有名になって自立で
きるようになれば一番いいと思いますけれども、今の段階では皆が
思いを寄せ合ってやるのがいいのかなと思いました。

会長：次の11番、我が家の所蔵作品展にいきます。今回は企業が所蔵す
る作品を中心に展示するとなっています。

委員：いつも運搬費で気になるのが、何を使って運搬するのかだ。1万か
ら7万円と事業によって幅がある。

委員：トラックを借りて運搬するか、プロに委託するかで変わる。プロに
委託すればしっかり梱包して運搬される。

委員：先ほどの新道展で7万円高いと思ったが、作品が大きくて自分で持
っていけないと。

委員：要綱の中で、運搬費は必要経費として認められている。年齢的にも
年を取った人間で、運搬ができないということで理由はあると思う。

委員：事務局の方でわかれば伺いたいが、弊社の名前も入っているがまだ
何も（申請者側から）聞いていない。これはもう決まった話として
申請がされているのか。それともこれから企画していくのか。

事務局：おそらく内定を受けましたら、その後依頼がいくと思います。

- 委員：北海道製油所の中には美術品がなく、大半は出光美術館の方にあります。それは本当の美術品で、温度・湿度の管理も必要なので1万円では運べなくなるが。
- 事務局：こちらの庁舎の廊下にも絵画を飾っていますが、そういった美術品があれば借りるという形だと思います。
- 会長：次の12番、苫小牧室内楽研究会第18回公演にいきます。
- 委員：ゲストが入って定期演奏会を行うということか。
- 会長：定期演奏会ではないです。年に2回か3回いろんなところで自主公演をやって、そのときはゲストなしでやっていますが、第18回はゲストを呼ぶという形です。三星とか、苫信とか、イオンとかいろんなところでやっています。ホールでやるのは助成金をもらうときだけで、今回は入場料をとってやります。
- 委員：ゲストの村松さんは元札幌ということで、札幌の事務局に支払うというわけではないのか。
- 会長：これは交通費なども込みで、本人への謝礼となっています。それでは次、13番の苫小牧西子ども劇場地域公演です。
- 委員：結論からいうと、この西子ども劇場というのは会員なのですよ。会費を払って200から300人いる。会員以外を入れると言っているが、会員以外が何人来るか確認したところ、令和2年度は80人参加したうち30人が一般とのことでした。
- 委員：結果的に会員の勧誘ではないのか。
- 委員：一生懸命にやっているが、そういうところがこの助成金の趣旨には合わないのではないかなと昨年も言ったが、今年度は中止になった。
- 委員：会員も入場料を負担するのか。
- 事務局：地域公演では会員も一般も入場料がかかるということです。
- 会長：それでは次、14番の演劇及び文化創造集団C.A.W公演です。
- 委員：事業内容として、苫小牧の紙文化を広めるということで、衣装も紙で作られるのか。それとも構成の中に深い意味を与えるのか。
- 委員：ストーリーではないか。その中でせっかくだから衣装も紙でできないかと発展させたのだと思う。
- 会長：それでは次、15番の縄文時代に関する講演会です。
- 委員：会員だけの講演会ではないかと思ってしまう。何人一般の方が入るのかというと何とも言えない。
- 委員：後援に美術博物館を入れるというのであれば、ホテルでやらなくてもいいのではないか。
- 事務局：会場をホテルに移した理由を申請者に聞きました。令和3年度の事

業報告に記載のとおり、席数を制限すると美術博物館の会議室では狭く、会員しか入れないため助成事業としては中止し、会員に限定して講演会が行われました。そのため、令和4年度は一般市民も参加できるように、席数の制限があっても問題のない広い会場に移したとのことです。開催日に公共施設での空きがなく、ホテルを会場としたとのことです。

委員：現在も美術博物館の制限はあるのか。

事務局：現在は定員の制限はありません。

会長：会場費が備品込みで3万円であればそこまで高くなく、美術博物館を会場としてもそんなに変わらないのではないかと。ホテルにしてキャパを倍にするというのは、理由としてはあると思います。他に意見はありませんか。

委員：はい。

会長：それでは、令和4年度の助成事業申請について、新道展苦小牧支部展は審査会で協議することをご一任いただきたいと思います。その他の事業は助成対象として、助成希望額で内定することよろしいでしょうか。

委員：はい。

※令和4年度の要望事業15件のうち、14件を内定、1件は審査会で申請者同席のうえで再度審議することです承を得る。

(3) その他

委員：審査の目安ができて、この判断基準が申請書に反映されているかという、従来どおりの書き方がほとんどだ。将来的に自立するとか、その辺のところを真剣に考えさせるとなると、今のやり方では、事務局が間に入ってかなりレクチャーしないと決定できないのではないのかという気がした。特にリサイタルだとか絵画の展覧会だとか、将来性をどう見るのかというと考えてしまう。そこまで考えたうえで助成するのとなれば、広く市民に活用してもらおうという趣旨と、厳密に制限をするというやり方と、この辺のバランスが難しいというのが、今回事前に見たときに感じました。

委員：今回は申請内容の概要みたいなものをまとめていただいたりして、非常に分かりやすくしているような気がしました。申請書も以前よりはまとまったのではないかと思います。

会長：他に何かありませんか。ここで、事務局から発言を求められており

ますので、許可します。

事務局：委員の皆様におかれましては、令和4年6月10日をもって任期が満了となります。この間、皆様におかれましては、貴重なご意見、ご指導をいただき感謝申し上げます。今後におきましては、各団体からの推薦及び公募という形でお願いすることもあります。今後においても文化芸術振興に取り組んでまいりますので、ご理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

3 閉会 15時45分